

# 6月議会定例会

村議会定例会が6月9日に開かれ、補正予算等3議案が審議され、いずれの議案も原案のとおり可決されました。

## 補正予算

### ◆一般会計補正予算(第2号)

(内容) 歳入歳出予算の総額にそれぞれ3121万8000円を追加し、歳入歳出予算の総額を21億3121万8000円とするものです。

### ◆介護保険特別会計補正予算(第1号)

(内容) 歳入歳出予算の総額に66万8000円を追加し、歳入歳出予算の総額を4億7316万3000円とするものです。

## 人事案件

### ◆東秩父村教育委員会委員の任命について

(内容) 委員の渡辺成夫氏が平成28年7月31日をもって任期満了となるので、新たに田中俊哉氏を任命するものです。

## 一般質問

### 福島 重次議員

質問 国保財政と村民の健康について

(内容) 昨年12月の一般質問で

国保財政と村民の健康について質問したが、一人当たり医療費が県内で上位を占めている事実を理解した。当村の医療費増加原因は、高齢者医療ではなく、生産年齢人口における15～64歳までの医療費が高額になっていることが分かった。疾病別の原因を見ても生活習慣病が上位を占めている。

①15～64歳までの疾病原因について、年齢を5歳刻みに区切ったの疾病は何か。また、生産年齢者の疾病発生原因と治療の効果について

答弁 生産年齢人口の5歳刻みに区切ったの疾病については、

国保連合会で集計した生活習慣病の疾病別医療費分析の過去3年間のデータをみますと、15～49歳までは「精神疾患」が主な疾病で、50～54歳は「がん」、55～59歳では「脳梗塞」や「狭心症」、60～64歳では「糖尿病」が多くを占めています。特に60～64歳の男性の糖尿病の医療費が際立って高くなっています。

疾病発生原因については、遺

伝性の方、生活習慣による方等特定はできていませんが、過去の1人当たりの医療費の推移をみると、高血圧性疾患の方が県内市町村平均を2倍以上上回っている状況が続いています。

治療の効果については、医療の分野になりますので現時点では把握できておりませんが、医療機関との連携については今後の課題として挙げられている事項で、国で進めている「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の中でも、各自自治体と医療関係者が協働・連携できる体制の整備が必要とされています。

②国保加入者の特定健診受診率が高まらない原因、高めるための方策について、また受診率の向上と数値のデータベース化について

答弁 東秩父村の特定健診受診率は、県内で2位に位置しています。村としても医療費の抑制を図り、特定健診の受診率をあげるために、平成27年度から自己負担金を廃止し、すべて無料化にしました。

平成26年度特定健診受診率は49.3%でした。平成27年度はまだ確定値は出ていませんが5月末時点で51.3%となっており、前年度比2%の増となっております。

特定健診受診率が高まらない原因は、7月の終わりの3日間、保健センターで実施する集団健診に都合がつかない方がいるためです。そこで、6～12月の6ヶ月間比企都市内医療機関で受診してもらおう個別健診を実施していますが、村内に医療機関がないことも受診率が高まらない一つの要因かと思われます。また、特定健診を受けていない方の中には、治療、入院中で別に検査を受けられている方、人間ドックを受けられている方もいます。今後とも、健診の必要性和重要性、無料で受けられることとの周知徹底を図り、ひとりでも多くの方に健診を受けてもらうよう努力を続けていきます。

次にデータベース化についてですが、近年、特定健康調査の実施や診療報酬明細書(レセプト)等の電子化の進展、国保データベース(KDB)システムの整備により、保険者が健康や医療に関する情報を活用して被保険者の健康課題の分析、健康事業の評価等を行うための基盤

の整備が進んでいます。

③保健師と村民の関わりと指導内容について

答弁 保健センターの保健師の訪問は、精神疾患や難病、特定妊婦、養育支援家庭、健診結果に大きな問題がある等のハイリスク家庭が中心となっています。ハイリスクゆえの受診同行、関係機関連絡等も多くなっています。一般の住民への支援は健康教育や健康相談、電話等で対応しています。

平成27年度の特定健診受診者のうちメタボリックシンドローム判定者と予備軍判定者、計106名の方に特定保健指導を受けるよう案内し、運動教室や食生活改善教室への参加も呼びかけています。

住民との関わりである運動教室は住民の要望等を組み入れたプログラムを構成し、多くの方に参加してもらうため夜間の教室も開催しています。平成27年度は全31回実施し延べ401名の参加がありました。平成28年度は39回の実施を予定しています。

なお、保健指導の成果については、しなかつた場合との比較が困難なため、検証はしておりません。